

キャラクター名 ハラン・バーレイグ プレイヤー名  

<b>種族</b>	人間	<b>種族特徴</b>	剣の加護/運命変転		
<b>生まれ</b>	冒険者	<b>性別</b>	男	<b>年齢</b>	23歳
<b>冒険者Lv</b>	11	<b>経歴</b>	己に何らかの誓いを立てている (いた)		
<b>経験点</b>	2710		絶対に知られたくない秘密がある 蛮族と間違われたことがある		

<b>技</b>	12	能力値	<b>A-F</b>	<b>成長</b>	<b>他修正</b>	能力値	ボーナス	<b>技能</b>	Lv.	<b>技能</b>	Lv.
		器用度	6	2		20	3				
<b>体</b>	10	敏捷度	12	16	2	42 + 2	7	プリースト/ライフス	6		
		筋力	8	10		28 + 2	5	スカウト	5		
<b>心</b>	4	生命力	11	8		29	4	エンハンサー	5		
		知力	6	2		12	2				
		精神力	8	1		13	2				

<b>戦闘特技</b>	
タフネス	2122 p
トレジャーハント	2120 p
魔法拡大/数	226 p
全力攻撃	1B36 p
武器習熟/スピア	221 p
マルチアクション	2125 p
回避行動	218 p
武器習熟II/スピア	221 p
	p
	p
	p

<b>言語</b>	<b>会話</b>	<b>読文</b>
交易共通語	○	○

<b>練技/呪歌/騎芸/賦術</b>	
ガゼルフット	
キャッツアイ	
マッスルベアー	
メディテーション	
ケンタウロスレッグ	
怒涛の攻陣Ⅰ	
怒涛の攻陣Ⅱ:烈火	
流麗なる俊陣Ⅰ	
流麗なる俊陣Ⅱ:陽炎	
怒涛の攻陣Ⅲ:轟炎	
怒涛の攻陣Ⅳ:爆焰	

<b>技能</b>	技能 レベル	基本 命中力	基本 回避力	基本追加 ダメージ
ファイター	11	14	18	16
グラブラー	0			
フェンサー	0			
シューター	0			

<b>鎧と盾</b>	必要	ランク	筋力	回避力	防護点
	鎧	風切りのサーコート		12	1
盾	スパイクシールド		13	1	2
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)					2
回避技能	ファイター	合計値	22	5	

<b>武器</b>	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
コルセスカ+1	1H両	30		2d+ 14	10	20	45											
魔法の武器 命中+1により 武器本体のマイナス修正相殺																		
コルセスカ+1	2H	30		2d+ 14	10	20	55											
クリス・ヒルフェ	1H投	15	-1	2d+ 13	10	16	25											
<small>[リリフェラム] 射程20m オーダーメイド品 必帯-2, 必帯+10で装着(元必帯17+15)</small>				2d+														
				2d+														
				2d+														
				2d+														
				2d+														

<b>制限移動</b>	<b>通常移動</b>	<b>全力移動</b>	<b>回避</b>	<b>防護点</b>	<b>HP</b>
3 m	51 m	153 m	2d+ 22	5	79

<b>魔物知識/弱点</b>	<b>先制力</b>	<b>生命抵抗</b>	<b>精神抵抗</b>	<b>MP</b>
2d+ 0/X	2d+ 12	2d+ 15	2d+ 14	33

<b>魔法技能</b>	<b>Lv.</b>	<b>魔力</b>	<b>魔法技能</b>	<b>Lv.</b>	<b>魔力</b>
神聖魔法	6	8			

<b>装備品</b>	<b>説明</b>
頭	
耳 ゴールドen耳栓	呪歌に対する抵抗判定+2
顔	
首 光のアミュレット	アンデッドに対し、回避・抵抗+1
背中 ロングマント	赤い。その割割かは恐らく返り血だろう…。
右手 疾風の腕輪	早さが足りないッッッ！！
腰 多機能ブラックベルト	
足 韋駄天ブーツ	蛮族を追い掛ける為に装着した。
その他	信念のリング

<b>装備品</b>	<b>説明</b>
左手 怪力の腕輪	
聖印	3つの輪を重ねたライフオスの聖印

<b>その他メモ</b>	<b>自動失敗</b>
★一般技能 … 墓守:5 執事:4 仕立て屋:1 元シート ( <a href="http://charasheet.vampire-blood.net/1071028">http://charasheet.vampire-blood.net/1071028</a> )	チェック
兄と、合流した頃。複雑ながらも、十数年ぶりの再会を喜んでいたが… まさか、兄に血を吸られるとは。完全に油断していたのと、兄が人でないと知らなかったと云う事情があったとはいえ。心底、恐ろしかった。殺す気で抵抗すれば簡単だったのだろう。が、家族を傷付ける事を良しとせず、そもそもパニック状態な訳で。出来たのは必至で祈り(パニッシュ)続ける事だけ。遠く意識で、哀しげに祈るそれが、兄を寸前で止めた。	□□□□⑤
	□□□□⑩
	□□□□⑮
	□□□□㉔
	□□□□㉙
その後は、暫く兄と口を開けなかった。兄が、自らが何よりも憎む蛮族であると思った胸中は察するに余りある。故に、普段飲めぬ酒と酔いの力を借りて、ぶちまけた。この十数年と、此処で溜め込んだ全てを洗いざらい。ぶちまけたのは互い。結果的に、少し歩み寄る事は出来た。納得出来ないし、行為を許す事は出来ないが。	□□□□㉙
	□□□□㉙

